

栄小学校のESD活動

<活動の概要>

・「心に残る授業・未来の自分や社会に生かせる学びの実現」

具体的な取り組み

①心に残る授業の実践 ②SKEあいさる運動 を活動の柱に、ねらいに迫る教育活動に取り組んだ。

・活動の実際

①「戦後80年わたしたちが伝えたい戦争と平和」(6年みどり学習)

6年生になり栄校区の歴史を学ぶ中で、戦争遺跡の多さに気がついた子どもたちは、現代の「戦争」について想像し、戦争の悲惨、苦しい、辛いなどのイメージを持つ。そこで平和学習では、「戦争中はどんな生活だったんだろう」という子どもの疑問から、身近に残る戦争遺跡を調べたり、ゲストティーチャーを迎えて、語り継がれている戦争に関する講話を聞いたりして関心を高めていった。さらに社会科の歴史を学ぶ中で「戦争がなぜ起こったのか、日本はどのようにして戦争への道を歩んだのか」を学習し、市内に残るいくつもの戦争遺跡を見学して、戦争への興味を深めていった。学びを通して、戦争は勝ち負けに関わらず、人々にとって悲惨で辛いことであること「戦争は二度と繰り返さない」という気持ちを持ち、自分たちがこれからも平和を築いていくという考えをもつようになった。



②「私の未来は私がつくる！」(4年みどり学習)

「私の未来は私がつくる！」の学習では、SDGsについて調べ、自分たちにできるSDGsを考えた。初めは「SDGsって何か難しそう」「聞いたことはあるけど、よくわからない」と言っていた子どもたちも、考えた取り組みを実際に行っていく中で、「水を大切にするためにトイレの大小レバーを使い分ける」「電気をつけっぱなしにしない」「ごみを減らすために分別してリサイクルする」など、身の回りでたくさんの工夫ができることに気づいた。学習を進めていくと、「地球の問題だから地球に暮らすべくもやらずにやらないこと」「まずは自分が取り組む」など、SDGsを自分事として捉え、一人一人が持続可能な社会の一員として行動する大切さに気づき始めた。



③SKEあいさる運動(全校)

「あ明るくいいつも大きな声でささわやかにるスマイル」を合言葉に、毎年あいさつ運動に力を入れている。本年度は、各学年があいさつ部隊を結成し、挨拶ビンゴや挨拶カードなど全校が楽しく挨拶できる方法を工夫し、さまざまな活動を行ってきた。また、民生児童委員のかたをお招きして全校児童と一緒に遊んだり、運営委員が挨拶マップを制作したりして、普段お世話になっている地域のかたへ「挨拶をしていきたい」という思いを深めることができた。これらの活動を通して、全校にあいさつの輪が広がり、子どもたちのあいさつに対する意識が高まってきた。

